

白藍塾オリジナル

2018入試小論文分析&解答のヒント

2018年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

●慶応・経済学部

例年通り、設問A（説明問題）と設問B（論述問題）の2本立て。課題内容から言っても、しっかりと準備をしてきた受験生にとっては、それほど難しくない。

課題文は、「最後通告ゲーム」という実験ゲームについて説明した文章だ。このゲームでは、ほとんどの場合、ほぼ平等な分配が提案され、私たちもその結果を当然のこととして受け入れている。だが、伝統的な社会においてはそれは決して当たり前ではなく、市場経済化が進み、「フェア」な取引が文化規範となっている社会に特有の現象であることが説明されている。文章は読みやすく、難解な部分はまったくない。市場原理などの経済学の考え方にある程度理解があれば、何が問題になっているかもわかりやすいだろう。

設問Aは、2つの問いに答えなくてはならないが、A型を2つ重ねる形で対応できるだろう。「Bさんがホモエコノミクスかどうか」の答えは、もちろんノーだ。Aさんの提案を受け入れれば2千円が手に入るのに、取り分が0円になるのを承知で拒否するのは、「自分の利得の最大化」という点では非合理的だからだ。

一方、「Aさんがホモエコノミクスかどうかは分からない」ことの理由を説明するのは、少しややこしい。課題文にあるような「自分に9999円、相手に1円」といった極端な分配を提案していない（つまり、相手の利得もある程度考慮している）点は、ホモエコノミクスのわけではないと言えるが、「相手に2千円」というのが、相手に提案を拒否されずに自分の利得を最大化するギリギリの線を狙ったのだとすれば、ホモエコノミクスのだとも言える。そうしたことを、字数に合わせて説明すればよい。

設問Bは、厳密には、説明問題と論述問題がミックスされているタイプの問題。答えの前半を説明文、後半を論述文に当てるつもりで書けばよい。「市場型社会におけるフェアな分配規範」とその発生については、課題文の後半をまとめればよいだろう。「フェアな分配規範が定着するための社会の仕組み」については、現実には格差や不平等が原因でアンフェアな分配が行われていることも多いことを考えると、そうした格差や不平等を解消する仕組みを考えるのがよい。富の再分配のための社会保障制度の充実、累進課税制度、教育や就業の機会均等など、さまざまな制度が考えられるはずだ。

©執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://www.hakuranjuku.co.jp>